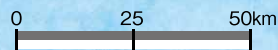


西蝦夷 化石MAP

化石に触れるルート 68P

- 1 三笠市立博物館(三笠市)
 - 2 滝川市美術自然史館(滝川市)
 - 3 沼田町化石館(沼田町)
 - 4 小平町文化交流センター(小平町)
 - 5 羽幌町郷土資料館(羽幌町)
 - 6 初山別村自然交流センター(初山別村)
 - 7 中川町エコミュージアムセンター(中川町)
 - 8 天塩川歴史資料館(天塩町)
- A 札幌市博物館活動センター(札幌市)
B 北海道大学総合博物館(札幌市)



西蝦夷化石旅

北海道は世界屈指のアンモナイト産出地。とはいえ、どこでも見られるわけではない。宗谷岬から中川、羽幌経由で浦河まで縦断する蝦夷層群、さらに釧路から根室半島にかけての根室層群らが露岩するエリアから産出される。そして、それらの中でも西蝦夷は特別なエリアとなっている。



ハボロハナカセキ

残された古代からのメッセージ

意外と知られていないが、北海道では化石が多く産出される。化石と言えば恐竜や三葉虫や貝などのイメージが強いが、植物の葉や、石炭も古代植物の化石である。中でも特別な存在が古代イカの仲間、アンモナイトだ。北海道はアンモナイト産出地として世界屈指の存在なのである。そのサイズや色形は多様性に富み、多くの化石ファンの垂涎の的となっている。その理由は、アンモナイトが生きていた白亜紀に北海道の辺りが海底だったこと、白亜紀の地層が地殻変動によって地表に露出している偶然が重なったためだ。道北の一部に分布する、宗谷岬から日高地方中東部にかけて縦断する蝦夷層群という地層から、この地特有のアンモナイトが幾つも発見されている。

上写真のハボロハナカセキもこの地特有のものだ。世界的にも未だ数点しか発見されていない花の化石において、このハボロハナカセキは保存状態が良好で内部の構造がほぼ完全な形で残されているのも注目点だ。約9千万年前の地層から発見されたハボロハナカセキは多くのメッセージを残している。

羽幌産 アンモナイト



左記の3点と右ページのハボロハナカセキは、羽幌遊歩ユースホステル(羽幌町栄町260)で展示されている。

西蝦夷エリアのなかでも羽幌はアンモナイトの宝庫だ。多種多様な姿形で数百種以上あるアンモナイト。色白で真珠光沢を放っているのが羽幌産の特徴だ。

フォレストリア エゾエンシス



やや密巻き、腹面中央に低いキールがある。突起はキール上の他に片側で3列(肩・側面中央・へその肩)がある。成長すると突起が消失する。遊泳性よりも捕食者から身を守るための突起と考えられている。

ゴードリセラ デンセプリカタム

螺環の断面は円形で中程度の巻き。気房部の表面には明瞭なS字状の細肋がある。殻口の形は肋のカーブに一致。うっすらと光沢がある。美しいアンモナイトだ。



アナゴード リシユラス



北海道各地から多産されるポピュラーなアンモナイト。緩巻き〜中程度の巻きで、気房部の表面はなめらかで弱い条線がみられ、住房部には周期的な長肋が波打つように発達している。羽幌産は真珠光沢をもった美しい個体が見られる。

化石が伝える 太古からのメッセージ

北海道は化石の宝庫。特にアンモナイトに関しては世界的に屈指の産出地だ。留萌エリアを中心にその周辺では地元にて産出した化石を観られる資料館が多い。白亜紀からのメッセージを受け取る旅へ出かけてみよう。

Nishi-EZO
×
Fossil Journey

化石に
触れる
ルート

① 三笠市立博物館

三笠市幾春別錦町1丁目212・1

アンモナイト化石の所蔵数日本一。国内最大を含め、一面に展示されている大型のアンモナイト群は圧巻。

問い合わせ先／01267・67545
開館時間／9時～17時(最終入館16時30分)
休館日／月曜(祝日の場合は翌日)

冬期間の祝日(12月～3月)、年末年始
入館料／大人450円、小・中学生150円



② 滝川市美術自然史館

滝川市新町2丁目5・30

一つの建物の中に美術部門と自然史部門を併せ持つ博物館。タキカワカイギュウや恐竜の骨格標本を展示。

問い合わせ先／0125・230502

開館時間／10時～17時

休館日／月曜、祝日の翌日、年末年始

入館料／大人620円、高校生370円、

中学生250円、小学生120円

③ 沼田町化石館

沼田町幌新381

9千万年前から3百万年前の幅広い年代の地元産の化石を展示。体験実習室では、化石のクリーニングやレプリカ作りができる。

問い合わせ先／0164・351034

開館時間／4月29日～11月3日の9時半～17時
※11月4日～4月28日休館

休館日／月曜(祝日の場合は開館)、祝日の翌日
(連休は最後の祝日の翌日)

入館料／大人500円、小中高校生300円

④ 小平町文化交流センター

小平町小平町356・2

ホールに大きなクビナガリュウの骨格標本や、アンモナイト、ウバガイの化石が展示されている。このほか小平町には道の駅「おびら練番屋」の「観光交流センター」にもアンモナイトの化石が展示されている。



問い合わせ先／0164・569500

(小平町教育委員会社会教育課社会教育係)
開館時間／9時～22時 休館日／年末年始

⑤ 羽幌町郷土資料館

羽幌町南町20・1

羽幌町の歴史が詰まった資料館。2階にはアンモナイトを中心に花の化石(ハポロハナカセキ)やハポロダイオウイカのレプリカ、大きな貝の化石が並んでいる。



問い合わせ先／0164-62-4519

開館時間／5月1日～10月31日の10:00～16:00

休館日／月曜 入館料／210円、高校生以下無料

⑥ 初山別村自然交流センター

初山別村初山別155・1

村内で発見されたシヨサンベツカイギュウとその胎児の化石の復元骨格を並べて展示している他、大型のアンモナイトなども展示されている。



問い合わせ先／0164-67-2136

開館時間／9:00～22:00

休館日／毎月第2・第4日曜、12月30日～1月5日

⑦ 中川町エコミュージアムセンター

中川町安川28・9

世界屈指のアンモナイト産出の町、中川町で発見されたクビナガリュウや大型アンモナイトなどの化石町の歴史などが展示されている。



問い合わせ先／01656-8-5133

開館時間／9:30～16:30

休館日／月曜(冬期間は土・日曜、祝日)、年末年始
入館料／200円、中学生以下無料

⑧ 天塩川歴史資料館

天塩町新栄通6丁目

平成7(1995)年8月に天塩町内で発見された、約300万年前のものとして推定されるテシオコクヅラの化石を展示している。



問い合わせ先／01632-2-2071

開館時間／5月1日～10月31日の10:00～17:00

休館日／月曜 入館料／200円、高校生以下無料